

【今後に向けて】

四万十町は、山・川・海と多様な地理条件のなか、それぞれの地域で地域特性を生かした一次産業が営まれています。今後、農業分野においては、水稻と畑作を組み合わせた土地利用型露地野菜の振興、施設野菜の導入による限られた農地での収益性の向上促進、農畜産物の一層の付加価値化向上のための6次産業化の推進に取り組みます。

具体的には…

①地域資源のブランド化

多くの地域資源のブランド化に向け、生産者団体などとの連携を強化し、特色ある産地の育成と、新たな販路の開拓を図ります。

②畑作振興

消費者ニーズに合わせた収益性の高い農産物の作付けや栽培方法の推進により、小規模な面積でも所得の向上につながるよう地域の特性に合わせた地産地消も組み合わせながら、畑作の振興による地域多品目化を目指します。

③6次産業化

地域の農畜産物を活用した、多彩な特産加工品や素材を生かしたメニューの開発・商品化を推進し、付加価値化に取り組みます。

**1次産業×2次産業×3次産業
＝6次産業**

【農業の担い手について】

農業者の高齢化や担い手不足が大きな課題となっていますが、就農相談会や農業体験ツアーの開催などの募集活動を実施しながら、新規就農しやすい補助制度を実施しています。特に四万十町独自として、親元就農を推進する「農業後継者支援給付金事業」と、国基準より高い年齢層を支援する「壮年就農給付金事業」に取り組んでいます。



『農業後継者支援給付金事業』を利用した農家さんへのインタビュー



戸田 龍雲さん
(26歳・仁井田／ニラ農家)

★農業をはじめたきっかけは何ですか？

愛知県出身で、父の実家がある四万十町へ移住をし会社員をしていましたが、父が体調を崩したことから、農業を手伝うようになりました。

★事業を知ったきっかけは何ですか？

農業をはじめるときに農協職員さんに聞き、役場へ相談に行きました。

★事業を活用してどうでしたか？

給付金をもらえるため、その分経営が安定しています。規模拡充に使えるため、やる気も出ます。

★今後の目標を教えてください。

農業を何も知らない状態からはじめていたので、当面は人材確保や農機具の整備など基礎固めをしていきたいと思っています。

農業は自分で考えて自分で動くため、責任はありますがやりがいがあり楽しくできています。

最近弟も農業をはじめようになったので、弟と協力し規模拡大をして、ニラに付加価値をつけていきたいと思っています。

来月号では、健康づくりについて特集します！



『農業後継者支援給付金』とは…

親の農業経営を継承する場合に、継承前・継承後に50万円ずつ計100万円が給付される事業です。各種要件がありますので、詳しくは農林水産課までお問い合わせください。

四万十町は食に関する多くの地域資源を有しています。今後も地域の特性を生かした安心安全で品質の良い一次産品や加工品の生産を行えるよう、関係機関と連携を図り、体制強化を図っていきます。

【お問い合わせ先】 農林水産課 ☎22-3113

四万十町は、山・川・海と大自然に囲まれ、豊富な食材の一大産地です。今回は、町内で生産されている食材についてご紹介します。

【主要品目の作付・生産状況】

	水稻		ショウガ		ニラ		ミョウガ	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
H18	1,550ha	6,390t	98ha	3,920t	23ha	1,370t	17ha	766t
H29	1,440ha	6,440t	105ha	6,722t	26ha	2,141t	16ha	721t

【生産量県内順位(平成29年産)】

ショウガ…第1位

ミョウガ…第2位

ニラ…第3位



●**水稻**:11年前と比べ、作付面積は減少傾向にありますが、生産量は維持しています。昔から県内有数の稲作地域である四万十町ですが、全国のお米コンテストでの入賞や、新しく農林水産省の登録を受けた新品種の誕生など、発展を続けています。

・平成27年第12回お米日本一コンテストで「にこまる」が『特別最高金賞』を受賞

・平成28年産米食味ランキングで高知県西産の「にこまる」が最高位『特A』を獲得

・平成30年に(株)四万十米クラブ「辻ノ川1号」が民間企業で県内初の新品種登録 など

●**ショウガ**:町内の露地野菜では最大の作付面積があり、生産量は県内だけでなく、国内でも第1位!!しかし、土壌病害が増えてきており、土壌病害対策の徹底を図り、生産量と品質の更なる向上を目指しています。

●**ミョウガ**:主に温暖な海岸部での栽培が盛んで、県内の生産量は第2位となっています。販売金額は、町内の施設野菜でトップとなっています。近年、土壌病害が増えてきており、養液栽培技術の導入による栽培の切り替えも行われています。

●**ニラ**:台地部を中心にハウス・露地で栽培されています。11年前と比べ作付面積は3haの増加ですが、生産量は約1.6倍に増えています。町内の施設野菜では最大の面積が作付けされており、近年は環境制御技術の導入による生産量増加や、そぐり機による調製作業の効率化が行われています。

【畜産の状況(平成30年2月)】

種 類	戸 数	頭羽数	県内順位
乳用牛	6戸	523頭	2位
肉用牛	12戸	1,346頭	1位
豚	5戸	15,810頭	1位
養鶏(採卵)	8戸	28,200羽	3位



県下でも有数の畜産地域として、乳用牛、肉用牛、養豚、養鶏が盛んです。牛・豚・鶏の全飼育実績のある市町村は県下で4市町しかなく、中でも生産量は上位に位置しています。特に豚肉は、県内生産量の約6割を占める規模を誇っています。全国的にも畜産農家数が減少傾向にある中、県内外の畜産物の供給を支えるため、生産体制の強化を目的とした畜舎の整備などに対する支援を強化しています。

このほかにも、多くの食材が生産流通されています。

キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ、ナバナ、ユズ、栗、シイタケ、アユ、ウナギ、シイラ、イセエビ など

特集

見て、知って、考える。四万十町の今